

平成27年3月5日

大山町議会議員 野口俊明様

議席番号 7 番 大山町議会議員

大森正治



一般質問通告書

次のとおり通告します。

(質問予定時間 60 分)

質問事項と要旨	質問の相手
<p>1. 子どもの医療費助成の拡充を</p> <p>本町独自の子どもの医療費助成制度は、6年前に中学校3年生まで拡大され、その後まもなく県の制度が実施されて現在に至っている。この医療費助成は、保護者が子どもを育てる上での安心の仕組み、子育て支援として有用である。</p> <p>それだけに、子育て世代の所得が下がり、子どもの貧困が広がる中で、医療費助成のさらなる拡充が求められている。県内でも、全国でも拡充が進められているところだが、本町で他に先駆けて、年齢の引き上げ、現在の一部窓口負担（通院 530 円、入院 1200 円）の軽減ないし無料化へと拡充していくことは意義あることと考える。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>①子どもの医療費助成を高校3年生まで拡充するよう検討してはどうか。</p> <p>②また、現行の一部窓口負担の軽減ないし無料化を検討してはどうか。</p> <p>③これを実施した場合、予想される予算はどの程度か。</p>	町長
<p>2. 人間ドックを核にした健診の充実こそ必要</p> <p>疾病の早期発見、早期治療によって、健康の維持と医療費の削減を図るために、健(検)診は重要な役割を果たしている。なかでも「人間ドック」による検診は、大山町では人気が高く受診者の7割を占め、受診率の向上に寄与している。</p> <p>ところが、平成27年度の人間ドック受診者は、今年度抽選に漏れた320人の希望者に限るといふ。これは明らかに健診事業の後退である。財政問題を理由に保健事業を後退させるのは本末転倒ではないか。保健事業を推進し、検診率を上げるためには、人間ドックを核にした健診の充実こそ必要ではないだろうか。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>①人間ドックによる健診のあり方や効果をどう考えているか。</p> <p>②次年度の人間ドック受診者の枠を今年度の半数以下に減らす理由は何か。</p> <p>③人気のある人間ドックを核にして、健診を充実させる手立てはないものか。</p>	町長



<p>3. 誘致した喜楽鉱業(株)について</p> <p>大山 I C 工業団地に進出を予定している喜楽鉱業(株)について、広島工場で事故があったとか、阿弥陀川から用水を取っている集落が進出に反対しているとかの話を聞いている。</p> <p>企業が進出するにあたっては、正確な情報が必要であり、関係住民の合意は欠かせない。</p> <p>そこで、次の点を伺う。</p> <p>①誘致した喜楽鉱業(株)の事業はどんな内容か。また環境汚染の恐れはないのか。</p> <p>②この企業を誘致するに至った理由や経緯はどういうものか。また、大山 I C 工業団地で操業するまでの過程で、現在どの段階にあるのか。</p> <p>③進出に反対している阿弥陀川下流域集落には、どう対応するのか。</p>	町長
---	----

(注) 的確な答弁がえられるよう、質問の要旨は具体的に記載すること。

質問の相手は、町長、教育委員長、農業委員長、選挙管理委員長、監査委員等とする。